２０１８年7月１０日

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

【開催報告】「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」

受賞記念講演会・シンポジウム

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団は「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞※」の受賞記念講演会とシンポジウムを開催しました。

※「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」は、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度で、社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者・研究者の研究意欲の促進と、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として1999年に創設しました。

記

１．開催日時 ：２０１８年7月7日(土) １３時～１７時

２．場　　所 ：グランドアーク半蔵門 （東京都千代田区）

３．参加人数 ：約１００人（大学関係者、学生・研究者、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者ほか）

４．主　　催：公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団
　　後　　援：厚生労働省、一般社団法人日本社会福祉学会、
　　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本地域福祉学会、
　　日本社会福祉系学会連合、

５．内　　容
　＜第Ⅰ部＞ 受賞記念講演会
　　受　　賞　　者 ： 田中　拓道 氏 〔一橋大学大学院社会学研究科 教授〕
　　受　賞　著　書：『福祉政治史－格差に抗するデモクラシ-』
　＜第Ⅱ部＞ シンポジウム
　　テ　ー　　マ　　:「市民は格差社会を変えることが出来るか？－福祉政治への参加の回路を探る－」
　　コーディネーター：岩田　正美 氏 〔日本女子大学 名誉教授〕
　　パ ネ リ ス ト　：今野　晴貴 氏 〔ＮＰＯ法人ＰＯＳＳＥ代表〕
　　：湯 浅　 誠 氏 〔社会活動家／法政大学 教授〕
　　コメンテーター　：田中　拓道 氏 〔一橋大学大学院社会学研究科 教授〕

６．参加者の感想
- 福祉の提供も大切だが、それを使うための知識や知恵を身につける国民の教育が重要だと感じた。
- 他国との比較を含めての講演で、トップダウン型改革や政治的機会構造など、多くの気付きを得られ興味深かった。
- 福祉制度、政策、利用者の境遇、在り方を考えさせられる話だった。
- 格差社会は単に政治だけでなく、労働の原因もある。この問題も解決しなければならない。
- 労働問題から貧困や虐待へ広がっていく連鎖がよく見えた。
- 田中氏の問題提起から、湯浅氏の世論や人々の動きにみられる希望的観点や、今野氏の一般労働者への最低賃金保障が、福祉へのコンセンサスや対立構造との緩和に繋がるなどの具体的提言がかみ合うことでテーマについて考えを深めることができた。

以上